UTEC

Co-Founders for Innovation

UTEC

株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ

〒113-8485 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学南研究棟3F

Tel 03-5844-6671
Fax 03-5844-6672
Mail info@ut-ec.co.jp
Web https://www.ut-ec.co.jp

The University of Tokyo Edge Capital Partners Co., Ltd.

7-3-1, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8485, Japan

Tel +81-3-5844-6671
Fax +81-3-5844-6672
Mail info@ut-ec.co.jp
Web https://www.ut-ec.co.jp

2021.07.01.ver.

Science/Technologyを軸に、資本・人材・英知を還流させ、
世界・人類の課題を解決するためのフロンティアを開拓する

We pioneer frontiers to solve global issues of humankind, by bringing capital, talent and knowledge, around science and technology

郷治 友孝

Tomotaka Gōji

Investment Strategy

投資戦略

優れた Science/Technology

- 軸となる東京大学に加え、全国の大学、研究機関、企業、政府と連携し、インパクトのある技術をソーシング
- 必要に応じて組織を超えてテクノロジーをロールアップ

強力なチーム

- テクノロジーを活かした事業を強力に推進できるプロフェッショナルマネジメントを重視
- 製品開発・オペレーション・管理面においても強力なチームを構築

グローバルな市場や課題

- 設立当初からグローバル市場を視野
- 全人類的な課題の解決を志向

投資戦略

主な実績

Cirius Technologies
The Ubiquitous Business Catapult.

2010年8月
ヤフー株式会社がM&A

Morpho

2011年7月
東証マザーズ上場

Naked Technology

2011年9月
株式会社ミクシィがM&A

PHYZIOS

2013年2月
Google,IncがM&A

PeptiDream

2013年6月 東証マザーズ上場
2015年12月 東証一部上場

popln

2015年5月
バイドゥ株式会社がM&A

GLM

2017年9月
香港上場O Luxe HDと資本提携

ACSL

2018年12月
東証マザーズ上場

mujin

2019年2月
MBO

AI inside

2019年12月
東証マザーズ上場

Neural Pocket

2020年8月
東証マザーズ上場

908devices

2020年12月
米国Nasdaq上場

FYUSION

2020年12月
Cox Automotive Inc.がM&A

UTECについて

2004年以来、総額で847億円規模の5つのファンドを組成

- 創　　業　2004年4月1日
- 運営会社　株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ
- 運営する投資事業有限責任組合（ベンチャーキャピタルファンド）

UTEC 5号投資事業有限責任組合

設　立・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2021年5月7日
無限責任組合員（GP）・・・・・・・・・・UTEC Partners有限責任事業組合
規　模・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・約304.1億円
投資先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5件（保有中5件）

UTEC 4号投資事業有限責任組合

設　立・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2018年1月17日
無限責任組合員（GP）・・・・・・・・・・UTEC Partners有限責任事業組合
規　模・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・約243.1億円
投資先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36件（保有中34件、上場2件）

UTEC 3号投資事業有限責任組合

設　立・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2013年10月15日
無限責任組合員（GP）・・・・・・・・・・UTEC 3 Partners 有限責任事業組合
規　模・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・約145.7億円
投資先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31件（保有中19件、上場1件、M&A等2件）

UTEC 2号投資事業有限責任組合

設　立・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2009年7月31日
無限責任組合員（GP）・・・・・・・・・・UTEC、UTEC Venture Partners株式会社
規　模・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・約71.5億円
投資先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13社（保有中7件、上場1件、M&A等2件）

ユーテック一号エグジット投資事業有限責任組合

設　立・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2004年7月1日
無限責任組合員（GP）・・・・・・・・・・UTEC
規　模・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・約83億円
投資先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34社（上場9件、M&A等8件）

UTECについて

シード・アーリーをメインとした総合的なサポート

UTECの投資対象は、会社設立前のシードを含むアーリー段階

初回投資時のフェーズ※1,※2

件数ベース／%

※1 フェーズの定義については、2017 National Venture Capital Association Yearbookを基準としている
※2 2021年6月時点。ただし、複数ファンドより並行投資している案件は各々のファンドでカウント（FoF 出資は除く）

UTECについて

強いコミットメント

リード投資家として、投資先の経営・ファイナンス面を支える

※ほとんどの投資先に対して、リード投資家として取締役や監査役を派遣し、積極的にバリューアップ・経営支援

リードポジションの割合※1,※2

件数ベース／%

※1　過去のファイナンスにおいてリードポジションを取ったことがある、取っている件数の割合
※2　2020年6月時点。ただし、複数ファンドより並行投資している案件は各々のファンドでカウント（FoF 出資は除く）

Global Expansion

グローバル展開

Network

大学・研究機関との連携及び ポートフォリオのグローバル進出

投資先拠点

インベストメント・フロー

UTECの投資・支援

Sponsorship

大学へのスポンサーシップ

UTECは、2017年より東京大学の10の部局との間で19のプロジェクトのスポンサーシップを開始し、研究者や学生へのサポートを強化。
ベンチャーキャピタル事業の成果をもとに、東大をはじめとした他大学、研究機関へのサポートを拡充しております。

東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

大学院法学政治学研究科
法・政治分野における先端的科学技術の活用と分野融合研究

医学部付属病院
学術研究助成トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ（TR 機構）

大学院工学系研究科
自分で守る健康社会 COI 拠点：医療技術評価実験室関連寄附金

大学院工学系研究科
社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム（GSDM）の人材育成および研究基盤強化

大学院農学生命科学系研究科
農学創発基金（若手研究者支援事業）

大学院薬学系研究科
薬学若手研究支援

大学院新領域創成科学研究科
新領域創成科学研究教育振興基金

医科学研究所
若手研究者育成プロジェクト

本部・研究推進部
東京大学卓越研究員支援

東京大学基金 UTEC東京大学未来社会協創基金
UTEC-UTokyo FSI Research Grant Program

大学院医学系研究科
ライフイノベーション・リーディングプログラム

大学院工学系研究科
リーダー博士人材育成基金

大学院工学系研究科
Deep Learning 人材育成基金
ブロックチェーン・イノベーション寄附講座

大学院理学系研究科
理学若手未来基金

大学院経済学研究科
金融教育研究センター助成金

大学院新領域創成科学研究科
新領域研究助成金（河野 重行 東京大学名誉教授）

大学院情報理工学系研究科
情報理工学系研究基盤整備プロジェクト

生産技術研究所／先端科学技術研究センター
駒場リサーチキャンパス・若手海外自由展開・研鑽支援プログラム

本部・学生支援部
スポーツ振興基金・運動部器具備品基金

名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

学術研究・産学官連携推進本部
大学発ベンチャー応援事業
アントレプレナーシップ教育、アントレプレナー育成、大学発ベンチャー起業支援を行う大学発アントレプレナーシッププログラム「Tongali プロジェクト」

千葉大学
CHIBA UNIVERSITY

工学研究院
インテリジェント飛行寄附講座
次世代電動エアモビリティの基盤技術としての安全性、効率性、環境性を満たすインテリジェント飛行ロボティクス技術の研究開発活動とドローン分野における若手人材育成

UTEC Portfolio Companies

投資先企業

■Life Science & Healthcare p12-31

ImmunoScape Pte. Ltd.
エディットフォース株式会社
株式会社Epigeneron
Elixirgen Therapeutics, Inc.
オリシロジェノミクス株式会社
クオンタムバイオシステムズ株式会社
株式会社クリュートメディカルシステムズ
五稜化薬株式会社
セレイドセラピューティクス株式会社
ソシウム株式会社
タグシクス・バイオ株式会社
株式会社糖鎖工学研究所
Tricog Health Pte. Ltd.
Bugworks Research, Inc.
bitBiome株式会社
Faraday Pharmaceuticals, Inc.
株式会社ミルテル
株式会社メトセラ
株式会社MOLCURE
Repertoire Genesis株式会社

■IT p32-59

株式会社アイデミー
株式会社アダコテック
Institution for a Global Society株式会社
VividQ Limited
株式会社estie
株式会社ELEMENTS
株式会社お金のデザイン
OpalAI Pte. Ltd.
株式会社obniz
Obviously AI, Inc.
株式会社Capex
株式会社コンシェルジュ
シーオス株式会社
株式会社JDSC
スタートバーン株式会社
SWAT Mobility Pte. Ltd.
株式会社DATAFLUCT
TXP Medical株式会社
株式会社ティアフォー
Tellus You Care, Inc.
株式会社HashPort
PM Labs, Inc. (AGARA)
株式会社Finatextホールディングス
PaylessGate株式会社
株式会社レトリバ
Locix Inc.
株式会社ROMS
WASSHA株式会社

■Physical Science & Engineering P60-72

株式会社アルガルバイオ
株式会社ASM
エクセルギー・パワー・システムズ株式会社
Green Earth Institute株式会社
3dMetal Inc.
908 Devices Inc.
NExT-e Solutions株式会社
Nelumbo, Inc.
BionicM株式会社
株式会社FLOSFIA
ベジタリア株式会社
マイクロ波化学株式会社
株式会社ルートレック・ネットワークス

■Fund p73-75

Amadeus V Technology Fund LP
Deep30 投資事業有限責任組合
Blume Ventures - Fund III

アラムナイ.....p76-80
Team p81-86
Alumni Venture Partner p87
その他役員及びシニアアドバイザー p88

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

ImmunoScape Pte. Ltd.

Enabling immunotherapy through high-dimensional immune profiling

Q1 A*STAR Singapore Immunology NetworkのEvan Newll博士らによって開発された免疫プロファイル技術を活用し免疫療法の発展及び治療法の確立に貢献する為に起業

Q2 マスサイトメーターを用いて免疫プロファイルを解析できる世界唯一の会社。特に抗原特異的T細胞を網羅的に解析することで新規抗原やバイオマーカーを開発し、開発中の免疫療法の有効性・安全性を高める。

Q3 グローバルな事業開発の支援、東京大学をはじめとする日本アカデミアとの連携支援、経営体制・チーム強化

Immunological insights provided by ImmunoScape

Map of immune response landscape

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

エディットフォース株式会社

日本発のゲノム編集技術を通じて国内外の
創薬、農業、物質生産の産業革新に貢献する

Q1 海外で先行するZFN、TALEN、CRISPR等のゲノム編集技術に対して、日本発のゲノム編集技術を事業化すべく、九州大学の中村崇裕准教授が発明したPPR技術をコア技術として設立

Q2 PPR技術はゲノム編集の主流であるDNAのみならず、その下流であるRNAも認識が可能。DNA/RNAの両方が編集可能な世界初のゲノム編集ツールで、ポストゲノム時代の革新的な企業となる

Q3 事業計画のブラッシュアップ。経営人材、パートナー等の紹介。IPOなどのエグジット体制構築支援

PPRがDNA/RNAに作用する模式図

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社Epigeneron

新薬を開発することにより、全ての人を病の苦しみから解放できる社会の実現

Q1 現弘前大学大学院医学研究科教授の藤井穂高氏らによる遺伝子座特異的ChIP法の開発によって、ゲノム機能の局所的生化学的解析が可能になり、ゲノム機能の異常に起因する疾患の治療法の開発が格段に容易になったこと

Q2 遺伝子座特異的ChIP法をはじめとする革新的な技術の開発力。現在ホットな領域ではなく、先々を見据えた展望力や問題の打開力

Q3 特許周りの強化や業務支援者の紹介により、事業基盤の整備がなされた。今後は、資金面でのサポートに加えて、ビジネスモデルの構築やその更新に関するアドバイスを期待

遺伝子座特異的ChIP

集合写真

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

Elixirgen Therapeutics, Inc.

ZSCAN4を用いた細胞治療法による希少疾患の治療を目指す

Q1 慶應義塾大学洪実教授が米国NIH時代に発見した遺伝子ZSCAN4の臨床応用

Q2 ZSCAN4遺伝子が幹細胞のゲノム安定性を増しテロメアを伸長するという発見に基づく。ZSCAN4をゲノムを障害しない、より安全なRNA治療薬の形で造血幹細胞などの細胞に導入する技術を開発。米国FDAとPre-INDを終了し、先天性角化不全症を含むテロメア病の早期臨床治験を目指す

Q3 臨床治験にむけての加速資金、事業体制構築のサポート、企業・投資家・人材などへのネットワークハブ機能

ZSCAN4によるテロメア伸長の例

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

オリシロジェノミクス株式会社

革新的なDNA合成・増幅技術を基盤とした合成生物学企業

OriCiro

Q1 当社創業者の一人である末次正幸立教大学准教授が内閣府の研究促進制度であるImPACTプログラムの下で、細胞を使わずに長鎖DNAを増幅する画期的な技術を発明。バイオの新たな成長分野として期待される合成生物学の基盤技術として実用化する目的で、UTECが主導して起業した

Q2 バイオの研究開発に欠かせない長鎖DNAの増幅には現在、大腸菌を始めとした微生物の細胞が使われているが、手間と時間がかかる問題があった。当社技術では細胞を使わずにたんぱく質のみで増幅することができ、研究の手間と時間を大幅に省くことができる。さらには従来手法では増幅できなかったDNA配列も増幅可能となり、研究開発の対象を飛躍的に拡大できる。また、複数のDNA断片を同時に連結させて長鎖DNAを従来よりも高い効率で合成する技術も保有する。連結と増幅の技術を組み合わせることで、ゲノムサイズのDNAを簡便にかつ高効率で合成することが可能となる

Q3 この技術の革新性に早い段階から注目し当社の起業プロセスの全ての側面に関与、発明を事業化するプロセスを主導した。さらにシリーズA投資により、事業活動を本格的に開始できた

大腸菌ゲノムの複製プロセスを試験管内で再現

DNA断片からゲノムサイズのDNAを効率的に合成

粘性の高い、合成された長鎖DNA

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

クオンタムバイオシステムズ株式会社

革新的DNAシークエンサーの開発により、遺伝情報を活用した新産業を興していく

Quantum Biosystems

Q1 大阪大学、川合知二・谷口正輝両教授の研究成果をもとに、革新的DNAシークエンサーの開発を行うことを目的として2013年1月に設立

Q2 従来技術に比べて、簡易に、高精度に、低価格でDNA解析を実施することが可能。また、DNA修飾情報などの既存技術では取得できない情報を取得することが可能

Q3 シリーズA（リードインベスター）、シリーズBラウンドでの出資を通じた、資金面でのサポート。外部取締役としての積極的な経営関与、重要な意思決定にあたる貴重な助言

シークエンサーのプロトタイプと半導体チップ

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社クリュートメディカルシステムズ

クオリティ・オブ・ビジョンの向上に貢献し、生涯『しっかり見える』を！

Q1 前職のHOYA株式会社において立案した新規事業企画の起業化チャンスをいただき起業。技術顧問には、東大病院眼科相原教授が就任

Q2 光学技術に基づく、モノ（医療機器）づくり

Q3 経営参画による企業価値向上、助成金申請など外部への訴求文書や事業計画書のブラッシュアップ、資本政策に関する助言や専門家の紹介など、実務面・メンタル面で支えていただいたことで当初の計画から大きな遅れなく遂行し企業価値を大いに高められた

ヘッドマウント型視野計アイモ

測定画面

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

五稜化薬株式会社

日本発のがん術中迅速診断のためのナビゲーションドラッグの開発

Q1 ケミカルバイオロジーを駆使して、創薬支援のための研究試薬開発のみならず、蛍光プローブの医療応用を目指し、2010年、北海道大学の知財を活用し札幌にて創業

Q2 創業後、東京大学の浦野泰照研究室が開発した蛍光色素や診断薬のプラットフォーム技術を導入することができたこと、並びにそれら色素の効率的な合成能力を自社に保有していること

Q3 事業計画の再構築ならびに長期的な成長を見据えた資金調達や人材紹介など包括的なハンズオン

がん検出の反応機構

ヒト食道がんESD摘出検体にEP-HMRGをスプレーする前（左）とスプレーした後5分（中央）、スプレー後10分（右）の色調変化。（がん部位は左写真の点線で示した部位。中央付近の緑に光っている部位がEP-HMRG による蛍光シグナル。

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

セレイドセラピューティクス株式会社

Celaid Therapeutics

ヒト造血幹細胞増幅技術を用いて次世代の細胞治療法の開発を目指す再生医療ベンチャー

Q1

当社創業科学者である筑波大学山﨑聡教授、東京大学医科学研究所中内啓光特任教授（スタンフォード大学教授）のチームは、液体のりの成分であるPVAを用いたマウス造血幹細胞の体外における大量増幅技術の確立に成功。その後、ヒトの造血幹細胞においても体外増幅する基盤技術の確立に成功し、臨床応用に向けた道が開けた。今後成長性が期待される細胞治療領域での臨床応用を加速させ、速やかな社会実装を目指すために会社を設立した。

Q2

赤血球・白血球などの血液の源であるヒト造血幹細胞の体外増幅はこれまで困難とされてきた。加えて、従来の細胞増幅法ではアルブミン・サイトカインのような生物由来物質が使用され、再現性が低く品質管理が困難であること、原材料が高コストであるなどの問題もあった。当社技術は、アルブミン・サイトカインフリー培地にてヒト造血幹細胞の体外増幅に成功したことに加え、品質管理が容易でかつ、低コスト化できる点が強みである。また、細胞ソース（骨髄、さい帯血、末梢血）によらず造血幹細胞を増幅可能なことから、様々な疾患への応用が期待できる。

Q3

この技術の革新性に早い段階から注目し、当社の事業開発プロセスに様々な側面から関与した。さらにシード投資により、事業活動を本格的に開始できた。

Succeeded in large-scale expansion of mouse HSC in vitro

Succeeded in large-scale expansion of human HSC in vitro

Large-scale ex vivo expansion of human HSC can be expected for clinical applications to various diseases.

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

ソシウム株式会社

SOCIUM

未だ満たされない治療ニーズに応えることで、人びとの健康に貢献

Q1 産業技術総合研究所の堀本勝久が開発した独自の遺伝子発現情報解析アルゴリズムを基に、創薬支援プラットフォームの開発・実用化を目指して2017年に創業

Q2 従来の解析技術に比べて、生物学的意義に基づく疾患関連遺伝子とそれらが構成するパスウェイを高精度に抽出することで、医薬品の開発成功率を高める

Q3 資金調達とグローバルレベルでの事業提携のサポートやそれを実現する経営人材のリクルーティングサポートに期待

複数特許から構成されるサービスフロー

独自のアルゴリズムに基づく解析

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

タグシクス・バイオ株式会社

効果が高く安全かつ低コストな核酸医薬品を創生し、医療経済界に改革をもたらす

Q1 「人工塩基対技術」の普及と幅広い分野での実用化を目指して、平尾一郎氏等が中心となり、2007年に起業。2016年より、創薬開発を主事業として活動開始

Q2 独自開発の創薬探索技術を用いて、核酸医薬品（Xenoligo™）を効率よく創り出すことができる。Xenoligo™の標的物質に対する高い親和性と高い選択性、独自開発の安定化技術が強み

Q3 世界に向けた日本発のバイオベンチャーとして、大きく成長できるための支援をお願いしたい

疎水性の塩基Dsを含むXenoligo™と、標的タンパク質との結合

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社糖鎖工学研究所

糖鎖技術を応用するバイオ医薬品のパラダイムシフト

GlyTech, Inc.

Q1 前職の大塚化学株式会社における研究開発や大阪大学梶原康宏教授との共同研究の成果に基づき、高純度ヒト型糖鎖の大量調製実用化と糖鎖応用によるバイオ医薬品への機能性付与の実証を行うために創業

Q2 糖ペプチド、糖タンパク等のバイオ医薬創薬の精密化学合成による創薬スクリーニングシステムと原薬の商業生産

Q3 起業時の資金調達と、ライフサイエンスネットワークによる支援

高品質・低価格な
糖ペプチド・糖タンパク質の生産

ラボ風景

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

Tricog Health Pte. Ltd.

効率的・迅速なAI心電図解析により、新興国における心臓病関連の死亡者を減らす

Q1 CEO自身がインドにおいて長年循環器の医師。多くの患者が適切な治療を受けるまでに時間がかかってしまっていることに強い危機感を覚えて起業

Q2 アジア・アフリカを中心に400万人以上の医師診断付きのECG診断データを収集。社内外に30名程度の専門医を抱えHP-GP、医療機器メーカと連携したサービスを展開。集めたデータを機械学習により解析。インドを中心に東南アジアやアフリカで2,500以上の医療拠点にサービスを展開

Q3 ファイナンス面のアドバイスに加え、医療機器メーカーとの協業や、日本の大学病院による共同研究の促進

AI解析はあくまで医師の診断サポート

機器は後付け可能。医療現場の導線は不変

アジア・アフリカの15か国で展開。

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

Bugworks Research, Inc.

幅広い薬剤耐性菌に効力をもつ新規抗生物質の開発

Q1 Bugworksは製薬業界での豊富な経験を有するDr.Anand Anankumar、Dr. Santanu Datta、Dr. V Balasubramanianのチームによって、AMRの世界的課題を解決するため、2014年に創業された。2017年7月には権威あるCARB-X grantにアジアで初めて選出された。インドのバンガロールに研究室をもち、創薬分野で総計200年超の豊富な経験を有するPh.D取得の研究者チームを擁するとともに、アメリカ、オーストラリアにもチーム体制を拡大させている

Q2 Efflux Unbinding (ELUDE™ platform):Bugworksの開発化合物は細菌外への薬剤排出を回避できる構造をもつため抗菌作用が持続Dual-target Mechanism:最も進んでいる開発品はバクテリアのDNA構造に関与するGyraseとTopo IVという2つの酵素に同時に作用可能Broad-spectrum utility:薬剤耐性菌として知られるすべての細菌(NDM, KPC, ESBL, MRSA等)に効力を有する

Q3 日本の製薬会社との提携機会の提供とともに、東京工業大学の村上聡教授との協業につきUTECから支援を受けている。多剤排出トランスポーターAcrBの結晶構造を解明した村上教授は、UTECの紹介により当社のScientific advisorに就任いただいた。財務管理や資金調達でも支援を受けている

Proprietary ELUDE™ platform of Bugworks

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

bitBiome株式会社

次世代マイクロバイオーム解析により、未知の微生物から新産業を創出する

bitBiome

Q1 早稲田大学 細川正人研究院講師が開発したシングルセルゲノミクス技術に基づき、次世代マイクロバイオーム解析を活用した新産業の創出を目指して2018年に起業

Q2 世界で初めて微生物に適合したシングルセルゲノミクス技術を確立し、従来解析困難であった微生物ゲノムデータの蓄積が可能となった。従来技術と比較してデータ精度と情報量が圧倒的に優れており、同社しか提供できない共同研究・受託解析サービスを顧客に提供する

Q3 共同創業者として、事業計画、知財戦略、チームビルディングなど多角的なサポート

シングルセルゲノミクスのワークフロー

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

Faraday Pharmaceuticals, Inc.

Pioneering the use of specific, reduced forms of natural elements — elemental reducing agents — to improve quality of life after acute, critical illness.

Q1 Faraday社は、米国Fred Hutchinson Cancer Research CenterのMark Roth博士により開発された技術を用いた新しい治療薬を開発するために2014年に設立された

Q2 Faraday社が開発するFDY-5301は過酸化水素を触媒作用により分解する能力を持つ。従来技術であるビタミンC等の抗酸化物質とは異なるメカニズムで活性酸素種を分解することができる

Q3 日本における産学連携、事業開発及び規制関連業務の支援

第2相試験における梗塞領域拡大抑制効果

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社ミルテル

医療イノベーションで「疾患になりにくい社会」を実現し、健康長寿と医療費削減に貢献

Q1 広島大学田原栄俊教授が、一緒に研究した学生を若年性胃がんで亡くし研究の実用化の重要性に気づいたことをきっかけに、自ら開発したGテール長測定技術を未病検知検査へ応用・事業化することを決断。さらにマイクロRNAによる早期発見検査により健康長寿社会に貢献したい

Q2 世界唯一のテロメアGテール長測定技術を用いた「未病検知検査」と独自の疾患特異的な体液中マイクロRNAによる「疾患の早期発見検査」を日本で初めて開始

Q3 資金面・経営面・事業面でのサポート、組織体制の強化、知財管理とライセンス契約交渉のノウハウ

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社メトセラ

心不全治療に、革命を起こす

Q1 岩宮氏の東京女子医大での大学院時代の研究の事業化を目指し、野上氏と岩宮氏の二人で2年の助走期間を経て2016年に創業

Q2
- 自家の非幹細胞を用いることによる高い有効性と安定して低コストな製造
- 独自のマッピング及びデリバリーデバイスを用いた心筋組織への正確で安全な投与
- 動物での高い有効性データに加えて、自社研究によるメカニズムの解明

Q3 IPO含めたファイナンス戦略、人材採用支援等

ヒト心臓線維芽細胞

心筋細胞とVCFを共培養すると密接なネットワークが形成されることを確認

メトセラの4つの強み

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社MOLCURE

有効な薬が見つかっていない疾患領域に対し有用な抗体をデザインする

Q1 慶応義塾大学にて科学者としての修行に励んでいた代表取締役社長 小川隆が、がんによる父の他界をきっかけに、問題を直接解決するためには、地球上のすべてのリソースを活用し、新薬創製における最短ルートをキャリアとして選択すべきと考え起業

Q2 抗体を作成するための従来手法に次世代シークエンサーと機械学習を組み合わせ、抗体ライブラリから既存手法では検出できなかった高機能抗体の獲得を可能にした創薬プラットフォームを開発した

Q3 資金提供による事業の加速、技術シナジーの高いコラボレーター及び顧客のご紹介、事業戦略のブラッシュアップなど、多角的なサポートを受けている

独自開発した
抗体作製法：Abtracer

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

Repertoire Genesis株式会社

REPERTOIRE GENESIS

次世代の免疫多様性解析を基盤にし、診断／治療法開発に革新をもたらす

Q1 元塩野義製薬の鈴木隆二氏が開発した非バイアス遺伝子増幅技術の次世代シークエンサーへの応用と専用バイオインフォマティクスソフトウェアの開発によって、免疫細胞受容体（TCR／BCR）における高速高精度な次世代レパトア解析技術が確立されたこと

Q2 免疫の多様性を世界で唯一、抗原と抗体の両側面から正確かつ網羅的に解析できる技術を有している。生体内で起きている免疫応答を詳細に把握することができるため、免疫系に作用する治療薬および診断薬の開発を飛躍的に効率化することが可能である。東京大学医学部附属病院やカリフォルニア大学サンディエゴ校をはじめとする国内外の多数の研究機関や製薬会社等で解析サービスが利用されており、共同研究等により更なる解析の高精細化にも努めている

Q3 ベンチャー育成のノウハウやネットワークを生かした支援と投資によって、創業が実現できたとともに、創業後の事業化における基盤整備も加速化された

免疫細胞受容体TCR／BCRレパトア解析

PepID	Sequence MT	Sequence WT	IC50 MT	IC50 WT	IFNγ secretion ELISPOT	IFNγ secretion Intra
14	KTFDYSSAL	KTFRYSSAL	0.3	1.0	++	++
42	QLLEPAISFL	QLLEPQISFL	1.1	1.4	+	++
27	FFYSSALKV	FRYSSALKV	1.4	12.0	+	++
12	NLEKLLVF	NLEKLLVF	2.3	38.5	+	−
18	VLIINDNEPV	VLDINDNEPV	2.4	1.7	+	−
43	KQYSSPALPT	YQYSSPALPT	3.2	3.7	++	+
21	NISSAIHTV	NISSHIHTV	3.9	9.2	+	+
41	KVLQLLEPDI	KVLQLLEPQI	4.1	3.0	+	++
36	ALYPFENRS	ALYPFESRS	4.1	5.6	−	++

がん細胞遺伝子変異・抗原探索システム
ネオエピトープ解析

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社アイデミー

AIの内製化支援を行うリーディングカンパニーへ

Q1 代表の石川聡彦は東京大学工学部在籍時に機械学習の応用分野を研究。AIプログラミングに取り組む敷居の高さを感じ、今日不足している人工知能エンジニア（ 人工知能を使えるデータサイエンティスト等）を養成するため、「Aidemy」のサービス開発に取り組んだ

Q2 法人及び個人向けにAIプログラミング特化型養成プラットフォーム“Aidemy”を運営するとともに、法人向けにAI 組織内製化やAIシステム運用のための支援事業を提供。強みは、環境構築不要で10秒で学習を始められるUX、国内最大65,000人以上のユーザー数を誇るAI研修サービスとして多くのユーザーを育成してきた実績、顧客企業がAIを用いたデータ分析を社内で行えるよう組織設計からAIの実運用までサポートしてきたノウハウの蓄積

Q3 シードステージからのファイナンス、経営戦略の策定、チームビルディング、顧客企業紹介など

オンラインコンテンツ特有の学びやすさ

AI 組織内製化やAIシステム運用の支援

AIの実運用を簡潔化するプラットフォーム「Aidemy Technology」

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社アダコテック

モノづくりの進化と革新を支える

Q1 国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）の革新的な技術「高次局所自己相関特徴抽出法を用いた適応学習型認識方式」を中核とした異常検知AIの実用化を目指して2012年に設立

Q2 少量の教師データでも異常をほぼ100%検出できる異常検知AIが強み。汎用PCでもミリ秒単位で高速に結果を出すことができ、異常の原因もブラックボックス化せず説明が可能である点も評価され、特にタクトタイムが厳しく説明責任が問われる難易度が高い検査現場への適用が進んでいる

Q3 リードインベスターとしてシリーズA資金調達を主導。事業戦略、人材採用、事業開発等の経営支援

少量のデータでも異常をほぼ100%検出（電子基板の写真）

社会インフラの異常自動判定技術を実用化
（トンネルの写真）

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

Institution for a Global Society株式会社

世界で共創・競争できる企業と人材を増やし、
今まで以上に平和な世界の実現を目指す
人を幸せにする評価・教育で、幸せをつくる人を、つくる

Q1 日本企業の人材の共創・競争力が世界で著しく減少している原因が、科学的でない教育・人事領域にあることに気づく。世界最大の投資企業でクウォンツアナリストと経営を担った経験と研究人脈（東京大学等との共同研究）が起点となっている

Q2 国際機関・政府・教育委員会・学校・大企業までの幅広い顧客に対し、小学生からシニアまでのビッグデータを活用し、世界で幸せの連鎖を引き起こす人材評価・教育を行うPeople Analytics × Ed Tech 企業

Q3 法人営業の戦略に関するアドバイス、政府・企業・大学とのネットワーク提供、ファイナンス支援まで、幅広い経営支援をいただけるパートナー

企業向け気質・コンピテンシーAI 測定ツール
「GROW360」が解明した、ある企業での人材評価能力の実態
（多面評価スコア平均×スコア分布）

教育機関向け気質・コンピテンシーAI測定ツール「Ai GROW」のクラスマネジメント機能。受検結果を基にリーダーシップ、イノベーション、3つの思考力について生徒を現状の能力・課題別にマッピング。さらに能力を効果的に伸ばすグルーピングも提案。

ゲーム形式の気質測定ツール「IAT」
指の動きで潜在的な気質傾向を
測定することが可能。国際特許取得

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

VividQ Limited

3Dホログラフィックディスプレイのマスへの普及を目指す

Q1 前身はデータ圧縮のスタートアップだったが、2017年に、コアとなっていたホログラフィ技術を転用し、ケンブリッジ大学Centre for Advanced PhotonicsのTim Wilkinson教授の支援も得て、3Dホログラフィックディスプレイのコアソフトウェア開発事業としてリスタートした

Q2 ①画質・計算速度・スケーラビリティを全て両立したホログラム計算・光学的収差の計算的補正技術およびその高速実装、②ホログラフィックディスプレイの構成に必要な各パーツのメジャーなサプライヤとのパートナーシップ

Q3 シードラウンドの共同リード、日本市場におけるビジネスディベロップメント、日本のアカデミアとのリレーションシップ構築

VividQのホログラフィックディスプレイは「深さ」を表現可能

アプリケーションの一つであるARHUDは、
実世界のオブジェクトに合った形で情報を重畳

ケンブリッジ大学や
オックスフォード大学などの
PhD人材を多数擁する
VividQのチーム

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社estie

UPDATE REAL ESTATE

Q1 創業者が三菱地所にて海外不動産投資・オフィス賃貸営業を行うなかで、個別不動産のパフォーマンスに関する統計解析の手法を構築・実践。プロでも十分な論理的根拠に基づく客観的意思決定が行われていない、ましてテナントは不十分な情報の中で意思決定を強いられている不動産業界の現実に課題意識をもって起業

Q2 賃料をはじめとした不動産にかかる定量指標の推定アルゴリズムや物件のリコメンドアルゴリズムとそれを支える不動産業界の知見。アルゴリズムは、データ収集、理解、補完、整形までの一連の過程において事業用不動産事業の知見を活かし、独自に構築した市場最大級の統合データベースによるもので模倣が困難。

Q3 シリーズAのリードインベスター、企業価値向上に向けた戦略・オペレーション・セールス＆マーケティング、人材採用の支援

個別オフィスビル賃料を可視化するアルゴリズム

地図上に不動産統合データベースを構築

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社ELEMENTS

生体認証で生活をより便利に安全に

Q1 慶應義塾大学法学部を卒業し、統計数理を専門とする久田康弘が、法医学の統計学による鑑定技術とコンピュータービジョニングにより技術開発に着手。現在、慶應義塾大学の青木研究室と共同研究を実施している

Q2 生体情報のインデックス化、深層学習による生体情報の高速検索、及び独自開発の認証システムをコア技術として保有。IoP（Internet of Person）

Q3 リクルーティングのサポート、事業計画の立案サポートに加えて、セールスサポート、ファイナンス面のリード、政府機関へのご提言や大手企業へ技術をベースに、ファインテック分野、リテール分野、不動産分野の事業を展開のご紹介

SYMBOL　3Dスキャニングサービスと人体の体形(型)データに特化したAIエンジンを提供

eKYC 生体認証クラウドで培った精度の高い画像照合

MYCITY画像認識などのセンシング技術を活用し、都市と個人をつなぐプラットフォームを構築

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社お金のデザイン

テクノロジーの力で金融サービスを民主化し、人とお金の新しい関係を創る

お金のデザイン

Q1 円安・インフレ・超低金利などの市場環境の変化によって、円で資産を持っておくことが必ずしも最適な資産保全方法とは言えない時代に日本が突入しているなか、京都大学加藤康之教授と共同開発した投資運用エンジンを活用して適切なアルゴリズムを提供することで、一般個人に対し、プロのアセットマネージャーが富裕層向けに提供しているものと同等の高度なアルゴリズムによるグローバル分散投資を行うことを可能にしたいと考えたため

THEO サービストップ画面

Q2 アカデミアと投資運用実務の双方に根差した運用チーム、金融規制業種における経験を有する金融チーム、良質な顧客体験を追求するインターネット業界出身者の組み合わせ

Q3 投資運用の正統性・信用力の補完と強化。適切な経営上のアドバイス

一人ひとりにあった資産運用プランを提案。
その数は231通り。

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

OPALai Pte. Ltd.

先物の価格、ヘッジ、トレーディング戦略にフォーカスしたAIドリブンのデジタルプラットフォーム

Q1 OPALaiは2017年にハーバード大卒で先物デリバティブの分野で20年以上の経験（7か国：Deutsche Bank, Citigroup, Rabobank、ADM）があるPravin Chandrasekaranによって創業された。OPALaiはEDB(Economic Development Board).による補助金を基に、シンガポールにおいて設立

Q2 OPALaiは機械学習及びディープラーニングによる統計的手法を組み合わせながら、先物価格に関連する400-500の特徴点を分析している。歴史的に株式を中心に利用されていたContinuous-Time Finance (CTF) 等の資産価格評価の技術を先物のプライシングに応用している。OPALaiは世界各地において、10以上のグローバルなクライアントを獲得しており、セクターはエネルギー、金属、農作物等多岐に渡る

Q3 シードラウンドにおける唯一の投資家として、日本における商社、金融機関、製造業等の顧客開拓や日本のアカデミアとの共同研究機会を提供

OPALai's Product Offerings for Pricing, Hedging and Trading

OPALai's Product Performance (for Illustration purpose)

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社obniz

Make Everything Online

Q1 従来までのマイコンボードを用いたIoTでは、開発環境の構築や特殊な開発言語、ソフトウェアだけでなくハードウェアの知識も必要となる等様々なハードルが存在した。誰もが自由にIoT電子工作を可能な世界を実現すべくobnizを開発した

Q2 あらゆる実装・開発をクラウド経由で行うように特化し、開発工数の削減、対応開発言語の増加、それに伴う使用可能ライブラリの増加、複雑な処理の実現等が挙げられる

Q3 販売営業戦略に関するアドバイス、人材採用支援、法人顧客のご紹介、法務関係の支援等幅広い支援を頂けるパートナー

obnizとそのプログラム画面

obnizを接続し自動運転化したラジコンカー

システム図

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

Obviously AI, Inc.

非エンジニア人材であるビジネスマンが、ノーコードプラットフォームを使って包括的な機械学習を行えるようにする

Q1 共同設立者のNirmanとTapojitは、ボストンのHampshire College で同級生であり、コンピュータサイエンスの学士号を取得。CEOのNirmanは、前職のスタートアップをインテルに売却するなど、起業家としての経験を持っており、CTOのTapojitは、MITでAI/MLの研究に従事。Obviously AIは、サンフランシスコのベイエリアに10人のチームを擁する。

Q2 同社は、優れた性能を持つMLモデルの構築とトレーニングを1分以内に可能にする「Edge-sharp AutoML」という独自の技術を構築。本製品は、クラウドサービスやデータベースとのシームレスなワークフローの統合に加えて、エンド・ツー・エンドでコードレスなユーザー体験を提供することで、アナリストやBI専門家のニーズに応えている。

Q3 クライアントとGo-to-marketのパートナーシップを促進することで、Obviously AIの日本/APACへの進出をサポート。さらに、採用、製品戦略、成長のためのハンズオンのオペレーションサポートも実施。

obviously.ai

Obviously AIの共同設立者であるNirmanとTapojitは、インドとバングラデシュから米国に移住

アップロードされたデータからAutoML技術を用いて作成された予測レポート

説明可能なAIによるモデル性能の可視化

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社Capex

人間に寄り添うバーチャルヒューマン

Q1 bitFlyerでCOOを務めた小亀CEOが、VR/ARや自然言語処理といった新技術を用いた社会課題解決を志向して起業。

Q2 アバターのUI/UXから、感情データを踏まえた独自アルゴリズムの対話エンジンまで、トータルで人間への寄り添いを高めたインタラクション体験の設計。

Q3 経営戦略全般、シードラウンドからのリード投資、採用支援、プロダクトフィードバック、B2B展開支援

iOS/Android向けにローンチした『PATONA』。ここでのユーザーとの直接のインタラクションを起点として、対話体験をブラッシュアップし、バーチャルヒューマンへと展開

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社コンシェルジュ

Concierge U

対話の自動化で世界を変える

Q1 創業者の東大アントレ道場、また投資ファンドでの経験からグローバルに活躍するスタートアップ企業を日本から生み出すという決意のもと、チャットという通信手段の変化のタイミングを捉えて東大大学院修了の2名で創業

Q2 150社を超える大企業への導入実績を持つ、エンタープライズ顧客が必要とする多種多様な機能をノーコードで提供する唯一のチャットボットツールであり、特許取得済みの独自のシナリオ作成アルゴリズム、顧客の用途に合わせて構築可能な様々な対話インターフェース、外部システムと柔軟に連携できることなどを強みとする。

Q3 IPO準備含めたファイナンス戦略、採用支援や組織構築

「kuzen」エディター画面
ノーコードでスピーディーにチャットボットが構築出来る

「kuzen」のIntegration Hub概念図
多様な対話インターフェース、SaaSと連携を実現

エンドユーザーのチャットボット利用イメージ

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

シーオス株式会社

ロジスティクス領域で、人間とAI/ロボットが協働する社会を実現

Q1 外資系コンサルティング時代にロジスティクスのグローバル・タスクフォースでのプロジェクト経験とベンチャー・インキュベーション事業に携わり、幼少のころからの起業家への夢がタイミングとして一致。ロジスティクスの分析・設計に絶大な自信があったこと

Q2 医療、小売、製造等、多業界の物流マネジメントを、戦略レイヤーから現場受託まで手がけることで物流IT化の機能要件が肌で分かっており、どのような技術が問題を解決し市場に広く活用されるか判断ができること

Q3 国内外の産学技術連携などによる技術開発のスピードアップと迅速なグローバル事業展開

RaaS用自動運搬車

ウェアハウスマネジメントシステム

デリバリマネジメントシステム

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社JDSC

インパクトを重視したデータ活用サービス

Q1 P&Gやマッキンゼーで、データ活用が企業プロセスを根本的に変え、社会構造を変えうるものと実感したことから2014年に社団法人を設立。業績拡大に伴い株式会社化

Q2 東京大学の越塚研究室(情報学環、IoT・データ活用)、田中研究室(システム創生、AI・ブロックチェーン)などのアカデミアの知見と、ビジネス側の実務の連携を行えるメンバー。大学院生のエンジニアメンバーも多数在籍

Q3 創業支援。戦略からオペレーションに至るビジネスモデル実現支援、企業の全社的な改革・デジタル化への意思決定と舵取りを行える経営層へのアクセス、ファイナンス面でのサポート全般

宅配で不在配送先を予測してルートを最適化

図面情報の画像読み取りと加工の自動化

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

スタートバーン株式会社

アートが民主化され、文化のみならず財としても身近で重要な意味を持つ社会の実現

startbahn

Q1 現代美術家であり、東大大学院学際情報学府出身の代表の施井が、社会変化のダイナミズムに反し、インフラ整備が遅れている業界の現状を危惧し、テクノロジーとアートの架け橋となるべく起業

Q2 日米で関連特許を取得していることや、ターゲット層にアプローチしているプレイヤーが少ないこともさることながら、業界事情をよく知り、能動的な更新を提案出来る立場にいること。Art Blockchain Networkをはじめとした活動によるアート×ブロックチェーンの日本における先導的企業としての認知度。また、自社でのブロックチェーンアプリケーションを継続的に行ってきた事による設計・開発の知見

Q3 今後コミットしていくブロックチェーンは未だ世界的にも法律や信用基盤が整っていない技術であるため、世界的な信用を獲得する意味で何より心強い存在

開発を主導するブロックチェーンを活用したアートのインフラ
"Art Blockchain Network (ABN)" (https://artblockchainnetwork.com/)

ABNを活用し、ブロックチェーン証明書と共に日本の工芸作品を販売する、丹青社との共同プロジェクト "B-OWND" (https://www.b-ownd.com/)

ABNを活用し、アーティストやギャラリーが作品販売・証明書発行を行える自社サービス "startbahn.org" (https://startbahn.org/)

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

SWAT Mobility Pte. Ltd.

バス向けのオンデマンドダイナミックルーティング技術

Q1

オンデマンドバスサービスを通じて交通渋滞の解消や、通勤通学者に対しより便利な交通手段の提供、そして輸送システムにかけるリソースの最適化を実現し、社会にインパクトを与えることをビジョンに2015年に設立

Q2

目的地の異なる乗客を複数人乗せる輸送サービスを提供している事業者のほとんどが、大規模に乗客を乗せる事ができるがルートは予め決まっている、もしくはルートはリアルタイムに臨機応変に変更できるものの一般乗用車のような小さな車でしかサービスを提供できない。これに対しSWATはビッグデータを活用し機械学習を用いる事で、更に一歩進んだ技術として大型の自動車においてリアルタイムに乗客のニーズに応じながらルートを生成する事が可能。SWATの技術を通じて旅客輸送事業者は交通渋滞問題に対処出来るようになってきており、全体として必要になる自動車の数を減らすことも出来ている。また、エンドユーザーにとっても、より目的地に近いところで乗降が出来るようになっている。競合の多くはSWATほど高精度の乗客輸送効率化を達成できておらず、SWATはLi & Lim's industry benchmarkのインテリジェント輸送部門においてランキングのトップに位置している

Q3

ファイナンス、リクルーティング、マーケティング等経営戦略全般

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社DATAFLUCT

データハンドリングと自動機械学習をコアとした「データ利活用の民主化」

Q1 13年以上にわたり30以上の新規事業立ち上げに携わり続け、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の招聘職員も務める久米村CEOが、データサイエンスを用いた新規事業に特化する形で2019年に創業。

Q2 JAXAで培った地理情報と画像解析の連携、データサイエンティストの属人性を排した最適モデルを探索する自動機械学習技術、高速に新規アプリケーションを立ち上げることを可能にするクラウド開発基盤

Q3 シリーズAのリードインベスターとしてのファイナンス支援、プロダクト化等経営戦略全般、アカデミア連携、人材紹介、上場準備

都市の課題をデータで解決し、サステナブルな（持続可能な）都市を実現することをテーマに開発を進める『DATAFLUCT smartcity series.』

ノーコードで機械学習モデルを構築できるマルチクラウド環境のAutoMLツール『DATAFLUCT cloud terminal.』

衛星データを活用し、大気中の二酸化炭素の濃度と経済活動を可視化する環境モニタリングサービス『DATAFLUCT co2-monitoring.』

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

TXP Medical株式会社

医療データで命を救う

Q1 現役救急医である代表園生が救急医療の現場で感じた課題を解決するためのソフトウェア開発を、当時勤務していた日立総合病院に於いて独自に進め、2017年に日本全国の病院に展開をするために起業し事業化を開始

Q2 医療現場のニーズの深い理解とそれに基づく製品やアルゴリズム開発、多数の大学病院を含む各地域の基幹病院との強いネットワーク、ベンチャー企業でありながら国内外の学会・論文に発信し続ける研究チームが競争優位性

Q3 シリーズAのリードインベスターとして、企業価値向上に向けた戦略、人材採用等の支援

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社ティアフォー

完全自動運転のプラットフォーム及びサービス事業による
高付加価値な移動時空間の創出

Q1 名古屋大学等で開発されたオープンソースの自動運転ソフトウエア「Autoware」を使った完全自動運転システム開発の為、加藤真平准教授（当時名古屋大学、現東京大学情報理工学系研究科准教授）を中心にで2015年12月に創業

Q2 「Autoware」を軸に、完全自動運転のプラットフォーム事業と、完全自動運転によって解放される時間と空間を活用したサービス事業を展開。2017年12月に日本で初めて一般公道におけるレベル4（無人運転）の自動運転に成功

Q3 経営人材の紹介、経営への参画、グローバル展開

Logiee_PV1

Milee_PV2

Minivan_PV3

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

Tellus You Care, Inc.

tellus

最先端の技術でエルダー・ケア（高齢者介護）を革新的に変える。

Q1 創業者二名の個々の介護の経験から、介護テック、特に睡眠関連の事業機会を見出す。

Q2 スタンフォード卒でグーグルやアップル、NASAなどを経験したチームメンバーが最新の技術を融合したソリューションを開発。

Q3 チーム組成、事業開発支援に期待。 特にチームはアメリカ・日本で優秀なエンジニアを集めたく、日本のアカデミアからのメンバーも積極採用

創業チーム

デバイス

ダッシュボード

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社HashPort

ブロックチェーンテクノロジーで日本を革新する

Q1 ボストンコンサルティンググループのデジタル事業開発部門であるBCG Digital Venturesにて、東京オフィス最年少のVenture Architect（投資・事業開発担当者）として日本及び中国でのプロジェクトに従事した吉田氏が、ブロックチェーン技術の興隆に伴い2018年7月に起業。

Q2 暗号資産に留まらない「トークン」領域は、ベースとなる設計・開発・運用ノウハウとそれを支える技術基盤に高い共通性が存在する一方で、その専門性は高い。HashPortは国内において「トークン」分野に特化して専門的サービスを提供し国内の大手事業会社・金融機関・仮想通貨交換業者をクライアントに多くのプロジェクトに従事し知見と技術を蓄積。

Q3 M&A、ファイナンス、CXOクラス採用、上場準備

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

PM Labs, Inc. (AGARA)

AI自律型音声テクノロジーによる次世代型カスタマーサポートの実現

Q1 経験豊富な技術者であるAbhimanyuと機械学習の専門家であるArjunによって2017年に設立。AbhimanyuはIIMカルカッタの卒業生であり、StayZillaや投資銀行（MAPEとRabobank）などでの取締役職を歴任。Arjunはジョージア工科大学で計算機科学の修士号を取得したのち、TwitterのSan Francisco本社で自然言語処理応用部門長を務めた経歴を持つ。Agaraのチームはアメリカとインドを拠点に、35名のチームから形成

Q2 AgaraのVoiceボットは、音声言語理解（SLU）、動的ダイアログ管理システム（DM）、および制御された自然言語生成（NLG）用音声ファーストの深層学習アルゴリズムを搭載している。 Agaraは、会話型AI分野で6つの特許を所持。プロダクトにより、クレーム処理の時間を30%短縮することを可能にしており、P＆Gをはじめとした世界10か国のFortune500の顧客に対し展開

Q3 UTECはパートナーであるインドのBlume Venturesと連携（BUDHAプロジェクト）。日本の事業会社との独自のネットワークを活かし共同開発にも貢献

ROI指標を表示する顧客向けダッシュボード

Agaraのチーム：
エンジニア、プロダクトリーダー、ビジネスエキスパート

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社Finatextホールディングス

金融を“サービス”として再発明する

Q1 金融機関向けのサービス実績や、東京大学渡辺努教授の研究成果を活用し、これまでにないリアルタイム性の高い情報を、ビッグデータを用いて開発・提供することを目指して起業

Q2 金融に関する豊富な知識・経験を基盤に、誰にでも分かりやすい UI/UX に落としこみ、非常に短い期間で開発を行う技術力。総務省や日銀出身者、我が国を代表する統計学・経済学の研究開発陣によるビッグデータを活用した経済統計開発技術

Q3 経営レベル、現場レベル全般のハンズオン支援

日経CPI Now

代表取締役社長の林良太（左）
と共同創業者の渡辺努（右）

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

PaylessGate株式会社

リアルの世界に究極の個人認証を提供し、シームレスな体験で世界を幸せに

PaylessGate
Create next generation

Q1 人の生きる意味は「次世代を創る」ことだと思うが、特に次世代に最も残すべきものの一つとして「シームレスな社会」があると考えている。オンラインでは簡単にできることでもリアル（オフライン）では手間がかかることをなくし、シームレスな社会を創りたいと思った。

Q2 認証には記憶情報、物理情報、生体情報の3つの組合せからなるが、リアルでは記憶確認に時間がかかる、物の取出しに時間がかかる、一度でも生体情報が流出したら本人が利用できなくなる、というデメリットがある。しかし、当社では、「高速高精度な位置測定」と「決済レベルの認証」特許技術を保有しており、スマートフォンをポケットやカバンに入れておくだけでハンズフリーであらゆる認証や決済が可能となる。

Q3 シード段階からの伴走

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社レトリバ

最先端の自然言語処理技術で、人の業務を支援するソフトウェアを作りたい

レトリバ

Q1 AI 技術の自然言語処理や機械学習、深層学習に大きな可能性を感じ、株式会社Preferred Infrastructureから事業譲渡を受けて独立。同社で製造事業部長を務めた河原氏、同社出身で東京大学情報理工修士の西鳥羽氏、他4名で創業

Q2 自然言語処理や機械学習、深層学習への深い知識やノウハウを活かし、お客様の課題を解決するために最適な手法をより使いやすく製品にしている点

Q3 経営戦略策定サポート、リクルーティング、今後の資金調達支援、顧客等のご紹介及びパートナー先の開拓に期待

Answer Finder精度評価画面

VoC Analyzer分析画面

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

Locix Inc.

革命的な無線センサー製品とサービスを開発し、
スマート・ホーム及び商用アプリケーション向けに展開する

Q1 スマート・ホーム及び商用向けの究極の無線センサー製品とサービスを実現すべく、シリアル・テクノロジー起業家のVik Pavateと、革命的な無線センサー技術を持つ米カリフォルニア大学バークレー校のVivek Subramanian教授、Elad Alon准教授によって設立

Q2 超低消費電力技術、無線技術、高度なセンサー技術、電力伝送技術、データ・サイエンスを駆使した独自のプラットフォーム技術により、ハイパフォーマンスで設置場所の自由度の高い無線センサー製品を低コストで提供することが可能となる

Q3 UTECは創業期より関与し、シリーズAをリード。事業戦略面で特に支援を受けており、システムインテグレーターやOEM先等、主要なパートナー探しにUTECのネットワークを活用したい

LOCIX Wireless Camera Product

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社ROMS

ROBOTICS OMNI SOLUTIONS: ロボティクスソリューションを
オムニチャネルやサプライチェーンの様々な領域に展開

Q1 UTECを通じて知り合ったポーランド人2名と日本人1名が、小売りや小売りのサプライチェーンの無人化・自動化のソリューション提供を通じた社会課題の解決を志して、2019年6月に日本にHQを設ける形で共同創業

Q2 日本チームが10年以上培ったビジネスや事業開発、小売の知見とポーランドチームが10年以上培った自動化やインテグレーション、ロボティクスの知見とを融合、更にはグローバルの視点でのIssue Drivenアプローチが競争優位性

Q3 ファイナンス面のバックアップだけでなく、会社運営からリスク管理に至るまで取り組んでくれるFounding Partner

ROMS
Robotics OMni Solutions

ROMSが展開する、ロボット無人店舗・ダークストアソリューション

ROMSの無人店舗ソリューションを利用して
東京に展開した実証店舗

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

WASSHA株式会社

Power to the People: 途上国に「電気のある暮らし」を届ける

Q1 CEO秋田が、市場のポテンシャル、社会的意義及び規制の観点から、アフリカを事業開始地域として選定。CEO秋田と阿部力也東京大学特任教授の2名によって2013年4月に共同創業

Q2 アフリカの地方部に点在するキオスク（小規模店舗）と連携し、百万人規模の消費者カバレッジと消費動向の詳細なデータを保有。また、経営陣はアフリカ・タンザニアに在住。現地メンバーと密接に連携したオペレーション、日本を中心とした大企業との連携、事業の実行力が強み

Q3 リードインベスターとして、経営へアドバイス頂き、必要に応じてパートナー紹介等も受けている

未電化地域に電気と明かりを届けます

連携する小売店（キオスク）の様子

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社アルガルバイオ

植物と藻類が地球を救う

Q1 東京大学河野重行名誉教授の20年以上の藻類バイオ研究

Q2 藻類株の生成や藻類の培養・機能性成分の誘導における様々な知財を基に、数千種類の藻類株を保有

Q3 研究段階から事業化支援を受けている。創業、これからの事業規模化フェーズでも引き続きリードインベスターとして広範な経営アドバイスを期待

様々な機能性成分が育成されたクロレラ。
色はカロテノイド種や長鎖脂肪酸種に対応

通常の藻体（左）と超オイル藻体（右）

薄層光バイオリアクターでの大量培養

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社ASM

2016年ノーベル化学賞受賞の「分子トポロジー」を実用化する
世界初の超分子材料“Slide-Ring Material（SeRM）”を提供

Q1 東京大学伊藤耕三研究室で発明された超分子SeRMは、高分子の世界に変革をもたらす基盤技術。これがもたらすアプリケーションのポテンシャルを認識した伊藤教授やUTECにおいて、素材産業で高まる関心に応えるために当社を創業

Q2 環動構造を有するSeRMという、2016年ノーベル化学賞受賞の「分子トポロジー(位相幾何学)」を実用化する超分子材料を提供する、今日では世界唯一のメーカー。東京大学の基本特許の専用実施権を保有する知財立脚企業。高分子材料に様々な新性能（強靭性、耐衝撃性、伸長性、復元性など）を付与する超分子材料で、既存の樹脂の抜本的強化、卓越した触力覚(ハプティクス)・形状復元性・振動吸収性・放熱性能の実用化などを可能にする

Q3 当社設立準備の段階から事業計画策定等で大きく関与頂き、設立後もリードインベスターとして、資金面のみならず、チームビルディングや経営面でご指導いただいている

既製品の10倍～の性能を有す
放熱シートを顧客とともに開発

SRMの構造: 分子の滑車で
架橋点が動く

ポリアミドの改質：耐衝撃性と強靭性を
飛躍的に上昇

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

エクセルギー・パワー・システムズ株式会社

Exergy Power Systems

Energy Transitionに取り組む欧米先進地域において、再生可能エネルギーの急激な変動を柔軟に調整するフレキシビリティ・サービスを提供

Q1 東京大学で生まれた、次世代パワー型蓄電池を活用した省エネ技術を事業化すべく、UTECの支援により創業

Q2 電力需要家が保有する既存の各種分散電源と次世代蓄電池システムを連携運転することで、最低限の蓄電池容量でフレキシビリティ・サービスを送電会社（TSO）に提供するビジネスモデルと欧米での事業開発力

Q3 シード段階より、出資だけにとどまらず、事業開発、提携先企業との交渉等、様々なご支援を長期継続的に受けている

ドイツ アーヘン工科大学E.ON Energy Research Centerに設置された1MWシステム

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

Green Earth Institute株式会社

世界が抱える「エネルギー」「食糧」「地球環境」という課題をコリネ菌で解決したい

Q1 地球環境産業技術研究機構（RITE）のコリネ菌という微生物を使った革新的バイオリファイナリー技術の実用化のため、日本初の“公益財団法人発ベンチャー”として創業

Q2 従来の発酵は、食糧と競合するバイオマスを使ってきたが、GEIは、茎や葉、木など非可食バイオマスを原料に、低コストで、バイオ燃料やグリーン化学品を製造可能。さらに、これまでの事業活動で培った国内外の幅広いネットワークを活かして、バイオリファイナリー産業の新しいプラットフォームを構築

Q3 UTECには会社設立準備から全面的にサポートしていただき、設立後もハンズオンでの支援を続けてもらっている

バイオ燃料や
グリーン化学品を作るコリネ菌

間伐材や茎・葉など
非可食バイオマスが原料

世界展開のための
開発拠点“Green Earth研究所”

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

3dMetal Inc.

人々が思い描いたモノが、あらゆる場所でカタチになる世界へ

Q1 完全独自開発技術に基づく革新的な金属部品の製造方法（創業チームによる着想と、キャンプ場で始まった実験検証）

Q2
- 完全独自技術に基づく革新的な金属3dプリンティング（超高能率・超安価・超大型）手法とその特許
- 産学での経験豊富なトップエンジニア集団（創業チーム）と、それを支える世界的な技術アドバイザー陣（MIT、Oxford、東京大学）

Q3
- ディープテック領域における豊富な実績と成功体験に基づく、的確な経営支援（助言、サポート）
- 幹部人材の採用支援、様々な専門家人材の紹介（マーケティング、知財戦略等）

超安価・超高能率・超大型な金属３Dプリント技術（完全独自）

金属原石粉末から金属粉末をその場製造（CO2フリー）

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

908 Devices Inc

Creating elegant analytical 'tools' from mass spectrometry

Q1 ノースカロライナ大学 Michael Ramsey 教授（東京大学グローバルCOEプログラム 機械システム・イノベーション国際拠点 招聘講師）が発明した高圧力質量分析法を活用した革新的な化学分析ツールを提供するために起業

Q2 小型携帯質量分析計の開発・製造・販売に成功した世界唯一の会社。「小型」「携帯」がもたらす新しい分析手法・用途・顧客価値を発案・提供できるチーム力

Q3 日本及びアジアの市場開拓・パートナー開拓支援を期待

M908：世界初小型携帯質量分析計

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

NExT-e Solutions株式会社

先進のバッテリー制御技術でE-モビリティの普及促進と
再生可能エネルギの導入拡大に貢献！

Q1 UTECのインキュベーションプログラム UTEC EIR を通じて、事業戦略を立案し、NEDOの助成金を基にプロトタイプを開発。その後、UTECからの創業投資によりチームビルディング

Q2 独自のバランシング技術およびIoTとAIを駆使したバッテリー監視システムによる蓄電池の再利用を通して、E-モビリティ分野とエネルギー分野をつなぐ複数ユーザに電池システムのリースサービスを提供

Q3 UTECは創業時からのパートナーであり、取締役としても経営参画。グローバルなメガトレンドをいち早く察知し、当社の強みを活かした斬新なビジネスモデルの構築を指導

自社製コア・デバイス

エネルギー分野の事例
（E-バスのバッテリー活用）

バッテリーライフサイクルマネジメント

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

Nelumbo Inc.

UCバークレー／シンガポール南洋技術大学（NTU）発の素材加工技術で
マテリアル技術にイノベーションを起こす

Q1 国際的な大学間連携研究を基に、全く新しいマテリアル技術のプラットフォーム可を試みる為起業。共同創業者でCEOのベリーマン氏はティールフェローで米国 Forbes30under30選出。CTOのブロックウェイ氏は米国エネルギー省フェローでLawrence Berkeley National LabやNASA Jet Propulsion Labの研究者を歴任。エンジニアリング担当のウォルター氏は60以上の特許や論文をもち、米国エネルギー省フェロー

Q2
・ユニークでイノベーティブな基盤技術
・アプリケーション毎に顧客と共同開発を行い成果を共有するビジネスモデル
・優秀なチーム

Q3 橋頭堡市場であるHeating Ventilation Air Conditioning and Refrigeration (HVAC-R)市場は、製造に関して世界トップOEM10社中4社が日本企業。また、ユーザー市場も世界2位（中国が1位）。 日本、アジア市場での組織開発やビジネス開発に尽力

共同創業者 ウォルター氏、ベリーマン氏、ブロックウェイ氏

アプリケーション分野

表面加工イメージ

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

BionicM株式会社

Powering Mobility for All.

Q1 自身も義足ユーザーの創業者がソニーでのエンジニア経験と東京大学でのロボティクス研究（博士号）を基に起業。起業前の3年間はUTECと共にJST STARTプログラムを活用して研究を進めた

Q2 東京大学発のベンチャーとして、ロボティクス工学研究に基づく最先端テクノロジーを活用し、従来の義足の問題を解決し、自然な動きを実現する小型かつ軽量な高機能義足を生み出す

Q3 チーム組成、事業開発、ガバナンス機能

ロボティック義足

SXSW受賞スピーチ

安全機能比較

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社FLOSFIA

新規パワー半導体「コランダム構造酸化ガリウム（α-Ga_2O_3）」を通じて
省エネ革命を実現！

Q1 創業メンバーの一人が京都大学藤田静雄研究室発の「新技術」を使って新しいコランダム結晶材料を発見。事業化の為に京大メンバーが集結

Q2 京大発のミストCVD法と、当該技術を用いて作製するコランダム型酸化ガリウム系半導体技術に強み。ミストCVD法は非真空成膜技術で高機能・高品質な金属酸化膜を安価に作る画期的技術。酸化ガリウムはパワーデバイスとして圧倒的な材料ポテンシャルを持つ材料で、世界に先駆け開発を推進

Q3 日々直面する研究開発・人員体制・資本政策等のさまざまな課題に対し、豊富な成功体験を有し他社事例を知るキャピタリストが助言し、行動することで事業推進を加速

α-Ga_2O_3を用いたSBD製品開発に成功

直径4インチの酸化ガリウム結晶製造法を確立

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

ベジタリア株式会社

vegetalia
Vegetat on Science & Technology

最新の植物科学とテクノロジーを駆使し持続可能な環境と健康社会を実現する

Q1 東京大学EMP修了後に就農。東京大学EMP関係者（講師陣、修了生）および各界有識者とともに食・農・健康・環境について議論を進め、各大学、政府系研究機関、各企業の技術・研究成果を融合

Q2 東京大学を中心とした各大学や政府系研究機関の研究成果を活かし、屋外計測モニタリングシステム「フィールドサーバ」、水稲向け管理支援システム「パディウォッチ」、クラウド利用型農業支援システム「アグリノート」、植物病理関連サービスを、グループで開発・提供。チームには、上場企業のCEO、CFO経験者などを擁する

Q3 大学発のシーズの紹介、政府へのアクセス、事業計画、販売などへの支援を期待

自社農場で（小池社長）

水田センサ「Paddy Watch」

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

マイクロ波化学株式会社

マイクロ波プロセスで世界のエネルギー・化学産業を変革する

Microwave Chemical

Q1 大阪大学塚原保徳准教授の研究成果を活用し、「日本発の革新的技術を世界に広めたい」「新しいテクノロジーベンチャーを日本に起こしたい」「環境に貢献する事業を始めたい」という想いを実現しようと、起業した

Q2 マイクロ波プロセスを用いたもの作りを可能とするプラットフォーム技術、その技術を開発した化学・物理学の研究者・エンジニアを含む多様な専門家からなるチーム

Q3 パイロット設備建設の為に資金を提供。ほとんどのベンチャーキャピタルや金融機関が「ベンチャー企業が工場を単独で建設するなんて無理」と相手にもしてくれない中、私達の技術力と将来性を評価していただき、世界初のマイクロ波化学工場を建設できた

世界初の大型マイクロ波化学工場（化学品の生産能力は年3200t）

マイクロ波を用いた新製造プラント（顧客企業の工場サイトに建設）

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

株式会社ルートレック・ネットワークス

「農業に休日を！」限られた地球資源で農業の生産性を高め、
農業に休日をもたらす持続型社会

Q1 日本・世界の農業はAIやロボティクスの利用で効率化・自動化できる。明治大学小沢聖教授の作物栽培学研究の成果をベースに、水・肥料使用量と営農の手間を格段に減らしかつ収量を増加させるAIを搭載した農業機械のプロトタイプができたことが第二創業のきっかけ

Q2 M2M製品を開発・販売していた確かな技術力をベースとし、また農学の知識を明治大学から得て共同開発することで、農業という現場に対し信頼できる製品を開発し販売できる。海外プレーヤーとの提携による対象市場の広さも強み

Q3 第二創業期における事業のかじ取り、海外事業でのノウハウの提供、IPOに向けての経営チーム補強や管理体制構築の助言等を期待している

灌水・施肥の自動化ロボットは約1年で投資回収が可能

新規就農家で2倍、熟練農家でも2-3割の収量向上の実績

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

Amadeus V Technology Fund LP

英国・ヨーロッパを代表するディープテックベンチャーキャピタルファンド

Q1 1997年にイギリス、ヨーロッパ発のテックベンチャーを世界に進出させたいという思いからHermann HauserとAnne Gloverが創業。

Q2 マネジメントチームは元British Venture Capital Association (BVCA)会長のAnne Glover CEO と王立協会フェローのHermann Hauser（二人とも大英帝国勲章受章者）及びIT、ライフサイエンス、エンジニアリング分野で投資実績豊富なパートナーが揃っている。また、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学を始めとするイギリス、ヨーロッパ各地の名門大学や各業界を代表する企業、ベンチャーキャピタルと強いネットワークを持っている。

Q3 UTECとの共同プログラムとして、「AUGMENT- Amadeus UTEC Global Market Expansion of Novel Technologies partnership」を発表。共同投資やバリューアップ等を行っていくことを通じて、英国及びヨーロッパにおける日本とシナジーがあるスタートアップのソーシングを確保するとともに、UTECの投資先スタートアップのバリューアップを図る。UTECとしては、日英欧クロスボーダーでの、市場/アカデミア/企業間の進出・提携支援を積極的に行う。

Amadeus Capital Partners

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

Deep30 投資事業有限責任組合

深層学習の無限の可能性で、共に未来をアップデートする

Q1 深層学習などのAI技術はハードウェアとの連携が重要となってきていることから、既存のインターネット事業よりリスクをとった初期投資が必要となる。そのため、深層学習などのAI技術の実現可能性を見極められる投資主体の必要性を感じた

Q2 産学連携の橋渡しをしながら、社会実装のための技術的助言、バックオフィス支援などを行い、AI分野の研究開発、エンジニア育成、バリューアップまでの一貫したサポート体制を構築

Q3 VCファンド設立・運営に必要なビジネス・法務・財務等の各種知見の指導、投資先への企業紹介やフォロー投資

質問内容

Q1	Q2	Q3
起業の発端	何が強みか（競争優位性）	UTECのバリューアップ（貢献）

Blume Ventures – Fund III

インドにおいてTech/Earlyにフォーカスした最もアクティブかつ最大のファンド（AUM$200M）

Q1

Karthik ReddyとSanjay Nathによって2010年に設立。2011年に初めのファンドとして$20MのFund Iを設立。その後2015年にはFund IIとして$60Millionのファンド及びIIAとして$41M、2018年に$102M のFund IIIを設立した

Q2

BlumeはインドにおいてDeep Techにフォーカスした VCのパイオニア。既にインドのDeep Tech分野のスタートアップであるGreyOrange、Tricog、Locus、Carbon Clean Solutions等多数の投資実績があり、Exit 実績としてもOlacabsに買収されたTaxiforsure、Twitterに買収されたZipdial、Nutanixに買収されたMinjar等多数。Blumeは投資先企業のバリューアップにおいて、プラットフォームによるアプローチをとっている。具体的には、Constellation Blu（アドバイザリサービス）, Passion Connect（リクルーティング）, Draper Venture Network（クロスボーダーのサポート）, Arka（インド-米国のB2B tech）、BUDHA（ディープテック投資）等を活用.

Q3

UTECは日本で最大のLPであり、BUDHA（Blume UTEC Deep-tech Accererator）イニシアチブを共同で実施。BUDHAにおいては、Deep Science/Technologyを武器にグローバルマーケットに挑戦するインドのスタードアップを支援。BUDHAとしては、TartanSense (Precision robotics for small farm holders), Ethereal Machines (5-axis additive and subtractive printing), Euler Motors (EV for last mile logistics), Agara Labs (conversational AI for customer support automation)、RayIoT (contactless monitoring of body's vital functions) 等がポートフォリオとしてある

Blume Day 2020

Partnering with Exceptional Founders

アラムナイ

国内外の第一線で活躍されるUTECアラムナイ(卒業生)の方々

2019年12月、東証マザーズにてIPO

AI inside 株式会社　代表取締役社長CEO

渡久地 択 氏　Taku Toguchi

2004年より人工知能の研究開発をはじめる。以来10年以上にわたって継続的な人工知能の研究開発とビジネス化・資金力強化を行い、2015年に「生産性を高めるAIプラットフォームで社会問題の解決に貢献」という思想に基づき、AI inside社を創業。 徹底的な顧客視点でサービス開発と技術・経営戦略を指揮しながら、自身でも多数の技術を発明、特許取得し、当社製品の技術的優位性を確固たるものとした。 2019年12月、創業5期目で東京証券取引所マザーズに上場。

同社製品DX Suiteの利用画面

2019年2月　MBO

株式会社MUJIN　CEO 兼共同創業者

滝野 一征 氏　Issei Takino

米国大学卒業後、ウォーレンバフェットの会社として有名な、製造業の中でも世界最高の利益水準を誇るイスカル社に勤務し、生産方法を提案する技術営業として多くの賞を獲得。2011年に世界的ロボット工学の権威であるロセン博士と同社を創業。世界一の産業向けモーションプランニング技術をもとに、知能ロボットコントローラ「MUJINコントローラ」を中心とする知能ロボットソリューションを提供し、物流、製造業界の現場で、今まで自動化不可能だった分野をロボット化に成功しており、生産性の大幅な向上を達成している。2018年JD.com社でロボット20台による世界初全自動倉庫を実現。2019年2月にMBO。

京東社のロボットによる
世界初の全自動倉庫

アラムナイ

国内外の第一線で活躍されるUTECアラムナイ(卒業生)の方々

2018年12月、東証マザーズにてIPO

株式会社ACSL(旧社名　自律制御システム研究所)　取締役会長

太田 裕朗 氏　Hiroaki Ohta

京都大学京都大学大学院航空宇宙工学専攻助教、カルフォルニア大学サンタバーバラ校中村修二教授研究グループ研究員、マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て2016年7月に同社COOに就任。2018年3月より現任。京都大学博士。「技術を通じて、人々をもっと大切なことへ」を信念に、“自ら考えて飛ぶ” 制御をコア技術とする産業用ドローンを活用したインダストリアル向け無人化・IoT システム構築を展開。物流を初め、トンネル・水道管や橋梁、船内の点検、内閣府の要請による被災現場での活用等、様々なプロジェクトを推進。2018年12月に東京証券取引所マザーズ上場。

完全国産の産業用
プラットフォーム機体

2017年9月、香港上場 O Luxe Holdingsと資本提携

GLM 株式会社　代表取締役社長

小間 裕康 氏　Hiroyasu Koma

2000年株式会社コマエンタープライズ設立、国内外の家電メーカーへのビジネスプロセスアウトソーシング事業を展開し、年商20億円に成長させる。2010年京都大学の『京都電気自動車プロジェクト』を母体として現GLM株式会社設立(旧社名　グリーンロードモータース)。2014年ベンチャーとして初の量産EVスポーツカーの国内認証を取得、2015年「トミーカイラZZ」の量産を開始。2016年次世代車両「GLM　G4」発表。2017年9月香港上場企業のO　Luxe Holdingsと資本提携し、欧州・中東・中国へのグローバル展開を目指す。

トミーカイラZZ

アラムナイ

国内外の第一線で活躍されるUTECアラムナイ(卒業生)の方々

2015年5月、バイドゥ株式会社がM&A

popIn 株式会社　代表取締役社長

程 涛 氏　Tao Cheng

東京工業大学卒業後、東京大学情報理工学研究科の修士課程での発明をビジネス化するため、2008年、修士在学中にpopInを起業。新たな記事コンテンツの評価指標「READ」を2014年にリリース、レコメンドサービスと共に日本、韓国と台湾の500以上の大手メディアサイトに採用される。2015年5月中国最大の検索エンジンを運営する百度(バイドゥ)と経営統合。現在、子育て家庭向けのシーリングIoT「popIn Aladdin」に注力し、ホームレコメンド事業を展開。

popIn Aladdin

2013年6月、東証マザーズにてIPO
2015年12月、東証一部に上場

ペプチドリーム株式会社　創業者

窪田 規一 氏　Kiichi Kubota

日産自動車株式会社、現 株式会社エスアールエル、株式会社ジェー・ジー・エス代表取締役社長を経て、2006年、東京大学菅裕明教授のFlexizyme 技術をコアとするペプチドリーム株式会社を設立、代表取締役社長就任、2017年より現任。同社独自の創薬開発プラットフォームシステムにより、多様性が極めて高い特殊環状ペプチドを多数合成し高速で評価することで、重要なヒット化合物の創製やリード化合物の選択等を簡便に行うことができる。2013年東証マザーズにてIPO、2015年東証一部に上場。第2回「日本ベンチャー大賞」受賞。

特殊ペプチドと
ターゲットとの結合

アラムナイ

国内外の第一線で活躍されるUTECアラムナイ(卒業生)の方々

2011年9月、株式会社ミクシィがM&A

シニフィアン株式会社　共同代表
元 ネイキッドテクノロジー株式会社 代表取締役社長

朝倉 祐介 氏　Yusuke Asakura

創立時

兵庫県西宮市出身。競馬騎手養成学校、競走馬の育成業務を経て東京大学法学部を卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニーに入社。東京大学在学中に設立したネイキッドテクノロジーに復帰、代表に就任。ミクシィ社への売却に伴い同社に入社後、代表取締役社長兼CEOに就任。業績の回復を機に退任後、スタンフォード大学客員研究員等を経て、政策研究大学院大学客員研究員。ラクスル株式会社社外取締役。株式会社セプテーニ・ホールディングス社外取締役。Tokyo Founders Fundパートナー。

2011年7月、東証マザーズにてIPO

株式会社モルフォ　代表取締役社長

平賀 督基 氏　Masaki Hiraga

手ブレ補正技術

1997年に東京大学理学部情報科学科を卒業。2002年、東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻(博士課程) 修了。2004年、画像処理技術の研究開発や製品開発を行う株式会社モルフォを設立、代表取締役就任。コンピューターサイエンスは実学であるという信念に基づき、最先端の研究をただ理論で終わらせるのではなく、社会のニーズに適応させ活かすことを志向し創業。現在はグローバルスマートフォンメーカーに各種画像処理ソフトを提供、車載や監視カメラ、ネットワークサービスへの展開を推進。2011年7月、東京証券取引所マザーズ市場に上場。

2010年8月、ヤフー株式会社がM&A

ヤフー株式会社　取締役常務執行役員
元 株式会社シリウステクノロジーズ 代表取締役社長

宮澤 弦 氏　Gen Miyazawa

2004年東京大学卒業直後に株式会社シリウステクノロジーズを創業、代表取締役に就任。2005年にUTECから出資を受け、モバイルSEO事業や位置情報に連動したモバイル向け広告配信事業を手がける。2010年8月、ヤフーにより買収。その後、ヤフーにてインタレストマッチプロジェクト(現YDN)のプロジェクトリーダー、2013年4月より執行役員(最年少)・検索サービスカンパニー長を務める。2015 年4月にメディアカンパニー長就任を経て、2019年10月より現職。

広告主が設定した
エリアの近くにいる
ユーザーに広告が
表示される仕組み

Cirius Technologies
The Ubiquitous Business Catapult.

Team

多様なバックグラウンドを持つプロフェッショナルによるサポート

Investment Professional

Tommy Goji

郷治 友孝

代表取締役社長
マネージングパートナー

ファンド運営及びベンチャー投資全般の統括

- 2004年UTEC創業以来、UTECのチームビルディング、UTEC1号から5号まで840億円強の投資事業有限責任組合(ファンド)の設立・運用、科学・技術系スタートアップの投資育成戦略を担う。投資運用責任者として全案件に関与しながら、数々の投資先の役員に就任、これまでに13社が株式上場、12社がM&A等を果たす。
- UTEC以前は、通商産業省(現経済産業省)にて、我が国ベンチャーキャピタルファンドの根拠法となった『投資事業有限責任組合法』(1998年施行)、中小企業の研究開発から事業化までを支援する日本版SBIR制度(1999年施行)等を起草、文化庁、金融庁を経て退官。
- 近年はデータサイエンスを研究し、大学関連スタートアップの成功とその要因を推測・分析。

1996年4月通商産業省(現経済産業省)入省、2004年4月UTEC共同創業。一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会(JVCA)常務理事も務める。東京大学法学部卒、スタンフォード大学経営学修士(MBA)、東京大学大学院工学系研究科坂田・森研究室にて博士(工学)号取得。

Nori Sakamoto

坂本 教晃

取締役パートナー

IT/AI, Life Science & Healthcare, Finance

- 経済産業省では、中小企業金融円滑化関連法案や家電リサイクル法の法案作成業務や未踏ソフトウェアプロジェクトに従事。退官後、アパレル流通のファミリービジネスに参画し、新規事業立上げ及び事業整理を実施。
- McKinsey&Company では、日本・東南アジア・欧州を中心に製薬、医療機器、自動車、ハイテク、消費財、金融機関等の業界各社に対し、営業・マーケティング、SCM、M&Aに関するプロジェクトに従事。
- これまで株式会社自律制御システム研究所/ACSL(2018年12月東証マザーズ上場:6232)等の社外監査役、ニューラルポケット株式会社(2020年8月東証マザーズ上場:4056)等の社外取締役を務めた。

東京大学経済学部卒業後、経済産業省入省。2008年経済産業省退官、流通事業会社の副社長を経て、コロンビア大学経営学修士(MBA)。McKinsey&Company を経て、2014年8月にUTEC参画。

Atsushi Usami

宇佐美 篤

取締役パートナー

Life Science & Healthcare

- ライフサイエンス分野を中心とするシード/ アーリーステージ投資を担当。
- 現在、投資先のRepertoire Genesis㈱、五稜化薬㈱、エディットフォース㈱、㈱ミルテル、㈱Epigeneron、BUGWORKS RESERCH, INC.、bitBiome㈱、オリシロジェノミクス㈱の社外取締役等を兼任。
- JST START事業プロモーター、NEDO TCPメンターでの事業化支援や、東京大学ライフイノベーション・リーディング大学院コロキウムでの産学連携教育セミナーの講師(一社)ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン(LINK-J)のサポーター等を行う。
- UTEC参画以前には、株式会社三菱総合研究所にて、ライフサイエンス及び他分野製造業メーカに対する新規事業戦略立案、経営計画策定支援等の業務に従事。

東京大学大学院薬学系研究科生命薬学専攻にて、博士号取得、薬剤師。株式会社三菱総合研究所にてコンサルティング業務に従事した後、2013年10月よりUTECに参画。

Team

多様なバックグラウンドを持つプロフェッショナルによるサポート

Investment Professional

Keisuke Ide

井出 啓介

パートナー

技術を軸とした
「日本発世界標準」

- シリコンバレーでのエンジニアや経営コンサルティング経験を含む15年間の米国滞在後、東京のベンチャー企業を経てベンチャーキャピタル業界に入る。
- 現在、投資先のTellus You Care, Inc. 、Nelumbo Inc.、BionicM(株)、(株)アルガルバイオ、シーオス(株)、ルートレック・ネットワークス(株)の社外取締役を務める。
- これまでにGLM(株)(海外上場企業によるM&A)、AI inside(株)(東証IPO)、(株)IID(東証IPO)の社外取締役を歴任。また米国Google Inc.による(株)フィジオス買収ではディール開発から交渉まで実行した。Forbes Japan Midas List、日本ベンチャーアワードキャピタリスト賞受賞。
- JVCAベンチャーキャピタリスト研修講師、文部科学省大学発新産業創出拠点プロジェクト事業プロモーター等を務める。

シリコンバレーでのエンジニアや経営コンサルティングの経験後、ファブレス半導体ベンチャーでは海外事業開発ディレクターとして従事。Globis Capital Partnersで8年間のコアテック投資を実施し、DMP (TSE 3652)、Phyzios (MA by Google Inc.)や IID (TSE 6038)を担当した後、2015年UTEC参画。バージニア大学工学部BS(Tau Beta Pi)、スタンフォード大学工学部MS(Honors)

Maiko Katadae

片田江 舞子

パートナー

Life Science
& Healthcare,
Medical Device

- バイオテック、およびヘルスケア分野を中心に、ライフサイエンス関連の技術デューデリジェンス及び、シード/アーリーステージのベンチャー企業への投資業務を担当。
- 特殊ペプチド創製技術を応用した創薬事業を行うペプチドリーム(株)(2013年6月東証マザーズ上場、2015年12月東証一部上場)のディールソーシングを経て、マネージメントチームの組成、事業計画構築、および事業開発に関与し、監査役を務めた。
- 現在、投資先のElixirgen Therapeutics. Inc.、TAGCyx Biotechnologies(株)、(株)CREWT Medicalsystems, SOCIUM(株)の社外取締役を務める。
- 内閣府 地域における大学振興・若者雇用創出事業評価委員、文部科学省 国立研究開発法人審議会臨時委員、経済産業省 産業構造審議会臨時委員

2005年6月UTEC参画。お茶の水女子大学理学部卒、東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻修了、博士(理学)。2013年『日経ビジネス』誌が選ぶ「次代を創る100人」に選出。2014年日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー準大賞受賞。

Naonori Kurokawa

黒川 尚德

パートナー

Physical Science
& Engineering,
Life Science & Healthcare

- 物理・化学関連技術に立脚したシード・アーリーステージベンチャー企業への投資に注力。
- 東京大学関連ベンチャーに加えその他の国内大学関連ベンチャー企業及び海外案件も幅広く手掛ける。
- 現在投資先のマイクロ波化学(株)、(株)FLOSFIA、(株)MOLCURE、ImmunoScape Pte. Ltd.、(株)obniz、(株)アダコテックの社外取締役を兼任。
- 全米のアカデミック研究成果を活用するベンチャー投資を手掛けるベンチャーキャピタル ARCH Venture Partnersを経てUTECに参画。

株式会社リコー環境技術研究所等で研究開発に従事した後、シカゴ大学留学中にARCH Venture Partnersにアナリストとして参画。2009年8月UTEC参画。大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了、シカゴ大学MBA。

Team

多様なバックグラウンドを持つプロフェッショナルによるサポート

Investment Professional

Hiroaki Kobayashi

小林 宏彰

プリンシパル

Healthcare/Life Science

- 2019年8月よりUTEC参画。主にヘルスケア・ライフサイエンス領域の投資及びビジネスのサポートを担当。
- 医療機器業界では、スタートアップ、大手メーカーにおいて、国内外での製造や販売等に関するアライアンス構築、アカデミアとの連携、KOLマネジメント、製品市場導入戦略など多様な業務を経験。
- 救急集中治療医としては、都心の大学病院や医療過疎地域の救命センター等で、軽症から最重症まで幅広い疾患分野をカバーする臨床業務、及び、研修医・医学生指導に従事。

東京大学医学部卒業後、同附属病院、日立製作所日立総合病院等で救急集中治療医として勤務。医療機器ベンチャーJOMDDを経て、フルブライト奨学生としてミシガン大学経営大学院(MBA)に留学。帰国後、大手医療機器メーカーでの事業開発本部を経て2019年8月にUTEC参画。

Kiran Mysore

キラン マイソール

プリンシパル

Seed, Early stage investment in AI, Healthcare & IT

- AI研究者からベンチャーキャピタリストに転身し、2018年1月よりUTECに参画。ITおよびヘルスケア分野のシード/アーリーステージ投資を担当。現在、Agara、Tricog Health、Bugworks Research、OpalAIおよびBlume Venturesの取締役またはオブザーバーを務める。
- UTEC参画前は、デロイトトーマツ ベンチャーサポート株式会社(DTVS)において、インド・東南アジアオペレーションヘッド。アジア全域において50社以上のDeep Techスタートアップ企業に対し日本企業とのコラボレーション等をサポート。また経済産業省とも密接に連携しながら、アジアのスタートアップ企業のためのCEATEC IoT Accelerationプロジェクトを主導。自身で学生主導のベンチャー企業Kriyaを共同創業した経験を有する。
- Stanford ASES (USA)、St. Gallen Symposium (Switzerland)および Yenching Academy (China)において Young Global Leaderに選出。2020年、Finance & Venture Capital部門にてFORBES Asia 30 Under 30に選出。

DTVSにおいてインド・東南アジアオペレーションを主導し、ベンチャー企業Kriyaを共同創業。2013年、スタートアップで急成長中のオンライン旅行会社、Cleartrip Indiaにおいて企業分析を担当。2016年東京大学TMIの修士を卒業。Deep Learningを専門とし2017年にPICMETにおいて論文がパブリッシュ。東京大学工学部(SEUT)フルスカラシップ受賞。

Lenny Chin

陳 嘉洋

プリンシパル

AI & IT, etc.

- 2021年7月よりUTEC参画。AI・量子コンピュータを中心にIT分野におけるシード/アーリーステージ投資を担当。
- 前職のレノボ・ジャパンでは、営業戦略部長としてNEC製品に関する大手家電量販店向け営業戦略立案・実行、オペレーション構築に従事。
- それ以前は、PwC事業再生部門にて窮境企業のターンアラウンドに従事し、主に大手グローバル企業の海外事業再建支援を実施。

カリフォルニア大学サンタバーバラ校College of Creative Studies数学科卒業。
PwCアドバイザリー合同会社の事業再生部門、レノボ・ジャパン株式会社を経て、カリフォルニア大学ロサンゼルス校経営学修士(MBA)。
同校卒業後、2021年7月にUTEC参画。

Team

多様なバックグラウンドを持つプロフェッショナルによるサポート

Investment Professional

Yuki Hayashi

林 佑樹

シニアアソシエイト
& データサイエンティスト

AI & IT,etc.

- 2017年よりリサーチアシスタントとしてUTECに参画し、デューデリジェンスや投資先への戦略提案に従事してきた他、社長とのデータサイエンスプロジェクトを遂行中。2019年より現職。
- UTEC参画以前は、東京大学大学院において、FAS産業のクライアントに対し、機械学習を利用した業務効率化の提案・ソフトウェア開発に従事。それ以前は、東京大学において、時系列解析・機械学習分野の研究に従事。大学在学中、アドテクスタートアップの日本法人において、社内データ基盤の構築に従事。

2017年よりUTECにリサーチアシスタントとして参画、2019年4月よりアソシエイト・データサイエンティスト。大学在学中、アドテクスタートアップの日本法人において、エンジニアを経験。東京大学大学院工学系研究科卒(技術経営戦略学)、東京大学工学部卒(機械情報工学)。

John Suzuki

鈴木 慈温

アソシエイト

Life Science & Healthcare
Physical Sciences
& Engineering

- 2020年7月にボランティアとしてUTECに参画したのち同年11月よりアソシエイト。主にヘルスケア＆ライフサイエンスとフィジカルサイエンス＆エンジニアリング分野の投資先の新規投資案件提案、デューデリジェンス、既存案件のビジネス構築戦略提案、海外展開などのサポートに従事。
- UTEC参画以前はケンブリッジ大学工学部化学科在学中にギレアド・サイエンシズ(カリフォルニア)でのインターンを経て高砂香料工業株式会社(ロンドン)に入社：野依触媒を使った高純度医薬中間体の受託製造、連続製造技術の大手製薬会社への販売促進、プロジェクト管理、価格戦略提案、法的文書などの技術翻訳を経験。
- 2020年3月ハーバードビジネススクール経営大学院(MBA)合格。

2020年7月にUTEC参画、同年11月よりアソシエイト。
ギレアド・サイエンシズ(カリフォルニア)でのインターンを経て高砂香料工業株式会社(ロンドン)にて野依触媒を使った高純度医薬中間体の受託製造、連続製造技術の大手製薬会社への販売促進、プロジェクト管理、価格戦略提案、法的文書などの技術翻訳を経験。
ケンブリッジ大学工学部化学科卒、同大学院化学工学学部バイオテクノロジー科修了。
2020年3月ハーバードビジネススクール経営大学院(MBA)合格。

Team

多様なバックグラウンドを持つプロフェッショナルによるサポート

Senior Expert

Atsushi Shimada

島田 淳司

シニアエクスパート(IP)
ベンチャーパートナー

Life Science & Healthcare

- 2018年UTECに参画。主に、ライフサイエンスの投資先の経営支援を行う。事業開発、経営戦略、知財戦略を得意とする。
- 武田薬品工業では、知的財産部においてAmgen JapanやNycomedなどのM&A案件や多くの製品ライセンス案件のデューデリジェンスを担当。米国イリノイ州のTakeda Pharmaceuticals International の Global Licensing and Business Development では、Directorとしてバイオベンチャーとのライセンス案件に従事。
- バイエル薬品経営企画本部においては新規医薬品のライセンスイン、ノンコア製品のライセンスアウト、ライセンス対象の製品スクリーニング、ディール締結後のアライアンスマネジメントに従事。
- 国内大手特許法律事務所では、国内外のバイオベンチャー、製薬会社の知的財産業務に従事した。

2001年より国内大手特許法律事務所、2006年より武田薬品工業、2011-2014年Takeda Pharmaceuticals international 出向、2014年よりバイエル薬品に勤務。2018年よりUTECに ベンチャーパートナーとして参画。大阪大学工学部卒業、IEビジネススクール修了。弁理士。情報セキュリティアドミニストレータ。

Junya Yamazaki

山﨑 順也

シニアエクスパート
(ファンドマネジメント)

Fund Management

- UTEC参画前は、武田薬品工業(大阪・ボストン)において、研究開発プログラムの投資採算性評価、売上予測、予算・ポートフォリオ管理などの業務に従事。また、社外ライセンス案件について、主にファイナンスおよび臨床開発の観点からサポート。
- それ以前は、ゴールドマン・サックス証券およびジェフリーズ証券において、証券アナリストとして主に日本の医薬品セクターの投資調査業務に従事。

京都大学薬学部卒業。同大学院生命科学研究科博士後期課程修了、博士号(生命科学)取得。ゴールドマン・サックス証券およびジェフリーズ証券において、証券アナリストとして主に日本の医薬品セクターを担当。武田薬品工業を経て、2019年6月にUTEC参画。

Administration

Hiroyuki Sakita

﨑田 博之

管理部長

Administration

- ファンド管理、投資家対応、会社の管理業務全般を担当。
- 有限責任監査法人トーマツではマネジャーとして、上場会社・上場準備会社の監査業務、上場準備やM&Aのための各種調査業務、業務プロセス構築・事業計画策定等のアドバイザリー業務に従事。
- スタートアップにてファイナンス、経理・人事総務・法務等のコーポレート業務全般に従事。

2007年 監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)入所。マネジャーとして監査業務・アドバイザリー業務に従事。スタートアップでのファイナンス業務・コーポレート部門立ち上げを経て、2018年1月よりUTECに参画。公認会計士。

Team

多様なバックグラウンドを持つプロフェッショナルによるサポート

HR

Hirofumi Oki

沖 大典

HRシニアマネージャー

Human Resources,
Executive Talent

- 2018年UTEC参画。投資先の経営チーム組成・組織開発、UTEC HRのマネジメントを務める。投資先の創業者や経営者候補の外部招聘/評価・組織図の設計・採用ブランディング・IPOに向けた組織戦略・人事制度設計・リーダーシップ開発などをサポート。起業前のチームビルディングからも支援をし、業界やフェイズ毎に応じたサポートを行う。これまでトップサイエンティストとトップ経営者を引き合わせ、3年間で70名を超えるの経営人材を輩出。また、UTEC独自の経営者タレントプール(UTEC Startup Opportunity Club)の管理、自社UTECのHRも兼任。
- 前職は英系エージェンシーにてバイオベンチャーチームのリードと立ち上げに従事。ヘルスケア領域における、幅広い経営人材(ビジネスサイドから研究、工場・生産周り)を紹介。当ポジションのキャリアコンサルティングにも従事。
- 学生時代から一貫してスタートアップ企業の採用をサポート。人材紹介、採用ブランディング、組織人事設計などを経験。

在学中からベンチャーに特化した組織・人事コンサルティングのスタートアップに就業。Web/IT業界の経営人材のヘッドハンティング、ヘルスケアベンチャーへの採用コンサルティングを経て、2018年8月にUTECにHRマネージャーとして参画。

Yugo Nakashima

中島 佑悟

HRスペシャリスト

Human Resources

- 2020年10月よりUTECに参画。投資先におけるHR戦略のマネジメントを担当。300社以上のスタートアップの採用現場に関わった経験から主にリクルーティング活動のサポートを行う。
- UTEC参画前は機械学習技術を用いた採用サービスを展開するスタートアップにてビジネス業務の立ち上げに従事。Python/GAS/R言語を用いたビジネス業務の統計解析や自動化も行う。
- 著書に「採用・人事担当者のためのITエンジニアリングの基本がわかる本」、「データ分析営業」

複数のスタートアップ・ベンチャー企業にてマーケティング、セールス、リクルーティングチームの立ち上げに従事。

Alumni Venture Partner

Hideki Tsuji

辻 秀樹

アラムナイ
ベンチャーパートナー
UTEC Venture Partners㈱
取締役

- 日本発の技術でグローバルにインパクトを与えるオープンイノベーション投資に注力。これまで、再生可能エネルギー導入拡大に資するMW級蓄電池システムを活用した分散電源サービスを行うエクセルギー・パワー・システムズ株式会社の欧州展開、デジタル制御技術によるEモビリティ向け蓄電池の再利用を行うNExT-e Solutions株式会社のアジア・欧州展開、次世代型SOFC燃料電池を開発するFCO Power株式会社の日本・欧州展開等の次世代技術の事業化を支援。

東京大学法学部卒業後、通商産業省を経て、ヴィジョンアーツ株式会社にCOOとして参画。ペンシルベニア大学ロースクール修士課程・ロンドンビジネススクール修士課程修了後、2006年8月にUTEC参画。

Ted Yamamoto

山本 哲也

アラムナイ
ベンチャーパートナー
UTEC Venture Partners㈱
取締役

- UTECではIT分野を中心とするシード/アーリーステージ投資を担当する他、グローバル戦略にも注力、UTEC投資先の株式会社ROMS、SWAT Mobility Pte.Ltd. 、Locix Inc.、Fyusion,Inc.、株式会社自律制御システム研究所（ACSL：2018年12月東証マザーズ上場：6232）、株式会社MUJIN(2019年2月MBO)、株式会社フィジオス(2013年2月Googleにより買収)、株式会社ネイキッドテクノロジー（2011年9月ミクシィにより買収）等の社外取締役を務めた。

1994年三井物産株式会社入社、三井ベンチャーズにて日米でのIT 関連のベンチャーキャピタル投資事業に10年間従事後、依願退職。2008年7月よりUTECに参画。オックスフォード大学理学部物理科卒業（M.A.Oxon）。英国オックスフォード大学サイード経営大学院エクゼクティブMBA在学(オックスフォードアラムナイ奨学生)。

Other Directors & Senior Advisors

その他役員及びシニアアドバイザー

茂木 敬司 Keij i Mogi

取締役会長

- 1964年上智大学外国語学部卒業、翌年ルーバン・カトリック大学修士課程ベルギー政府給費留学。
- 三井銀行（現三井住友銀行）にて、会長秘書、ニューヨーク支店副支店長、ブラッセル支店長等を経て、さくら銀行（現三井住友銀行）取締役、さくらカード（株）代表取締役副社長、ソニー生命保険（株）執行役員専務、英国Bridgepoint Capitalアドバイザー等を歴任。2007～2012年、帝京大学経済学部経済学科教授として教鞭を取る。
- 2006年より英国VenCap Internationalアドバイザーを務める。2010年6月、当社取締役（社外）に就任。

平野 正雄 Masao Hirano

取締役（社外）

- 1980年東京大学大学院工学系研究科反応化学科修士。スタンフォード大学大学院工学系経済工学修士、東京大学大学院工学博士。
- 1980年、日揮株式会社入社。1987年マッキンゼー入社、1993年マッキンゼー全社パートナー就任、1998年全社ディレクター（シニア・パートナー）、マッキンゼー日本支社長就任。2007年、カーライル日本共同代表に就任。
- 2012年より早稲田大学商学学術院（ビジネススクール）教授として教鞭をとる。日本ビジネスモデル学会会長。

高橋 浩之 Hiroyuki Takahashi

監査役（社外）

- 1985年東京大学工学部原子力工学科卒、1989年東京大学工学部原子力工学科助手、国際交流室講師、東京大学人工物工学研究センター助教授、高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所併任助教授を経て、2005年より東京大学原子力国際専攻教授、2014年より東京大学工学系研究科長特別補佐、生産技術研究所研究担当、2017年より東京大学工学系研究科社会連携・産学協創推進室長、東京大学産学協創推進本部副本部長を務める。2012年より日本学術振興会産学協力研究委員会第186委員会副委員長を務める。

中本 和樹 Kazuki Nakamoto

監査役（社外）

- 1976年大阪大学理学部数学科卒業。
- 1976年、大同生命保険相互会社入社。1998年同社取締役就任、2001年同社常務取締役就任、同社取締役常務執行役員、取締役専務執行役員就任を経て、2008年同社代表取締役専務執行役員就任。2010年同社常任監査役就任、2014年同社退任。
- 現在、学校法人近畿大学資産運用委員会委員、（株）クロスポイント・アドバイザーズ顧問。

大久保 勝彦 Katsuhiko Okubo

シニアアドバイザー

- 1965年東京大学工学部電子工学科卒業。スタンフォード大学エンジニアリング・スクールPh.D.
- 1965年、古河電気工業（株）入社、1995年同社取締役就任。常務取締役就任、専務取締役就任を経て、2005年同社退社。
- 2005年、（株）大久保技術経営事務所設立、代表取締役就任（現任）。現在、（株）精工技研社外取締役、日本スタンフォード協会副会長を務める。

冨山 和彦 Kazuhiko Toyama

シニアアドバイザー

- 1985年東京大学法学部卒業。スタンフォード大学経営学修士（MBA）及び公共政策課程修了。
- 1985年、（株）ボストンコンサルティンググループ入社、2001年（株）コーポレートディレクション代表取締役社長就任、2003年（株）産業再生機構代表取締役専務、業務執行最高責任者就任。2007年IGPI（（株）経営共創基盤）設立、2009年「JAL再生タスクフォース」サブリーダーに就任。2020年IGPI（㈱経営共同基盤）グループ会長就任
- 経済産業省IoT 推進ラボIoT支援委員会座長。